

日本代協

47都道府県代協と ともに考え、学び、成長する

2026年度通常総会を開く

日本代協(小田島綾子会長)は6月11日、東京・千代田区の損保会館で2026年度通常総会を開催した。総会では2025年度事業報告案承認の件と貸借対照表・正味財産増減計算書・財産目録承認の件(全役員任期満了に伴う役員選任の件が審議され、いずれも承認可決された。総会後に行われた理事会で小田島会長の再任が決まった。

小田島会長を再任 損保事業の 健全な発展に寄与する

総会審議に先立ち小田島会長が挨拶し、2025年度の事業推進については「組織を強化する仲間を高めるほうさい探検隊マップコンクル



小田島会長

の推進では、支部として委員会活動を通じて活発に意見を交わし行動し、事業の幅を広げて地域とながるなど、大変素晴らしい相乗効果を

業界における存在感を増した

生み出していたという」と述べるなど、日本代協が定める重点施策に取り組み各地の代協に対して感謝の意を表した。次いで、代協や代理店の意義については「自社事業が目指す顧客本位の業務運営や経営の高度化、これからの時代を力強く生き抜く持続可能な体制を築くためにも、私たちは職業団体として、組織の目的である損害保険代理店の資質を高め、業務の適正な運営を確保し、損害保険事業の健全な発展に寄与するためにも、47都道府県代協とともに考え、学び、ともに成長していきたい」と会員代理店に呼びかけた。

総会審議に入り、第1号議案の2025年度事業報告案承認の件では、説明にあたった日本代協の金澤亨専務理事が「2025年度は、金融庁が公表した監督指針改正案に対して、とりわけ比較推奨や特定大規模乗合損害保険代理店などに関し、損害保険事業の健全な発展に寄与することのできることを総括した。仲間づくり推進(会員増強)の状況については、本年度末の会員数が1万545店だったことや、入会代理店数は、331

店の入会目標を35%上回る447店になった一方、退会は585店で、前年度比138店減となったことなどを報告。退会理由については、代理店合併や統合の影響が増加傾向にある一方で、任意の退会は減少傾向にあるとして「代理店による代協への関心の高まりがみてとれる」と述べた。

損害保険大学課程の運営状況については、今年4月の受講者募集において募集目標840名に対して受講申込者数が3207名だったと説明。受講申込者数は昨年度比で1.7倍、一昨年度比で2.6倍と急増している

として、対応策としてWebセミナーの運営体制の構築が大きな課題だとした。受講申込者が増加した主な理由は、代理店による業務品質向上の意識が高まったことや、一部損保会社の手数料体系にトータルプランナーの在籍者(試験申し込み人数)が組み込まれたことなどが考えられる。

日本代協が会員代理店向けに設置している相談窓口「代理店経営サポートデスク」に関しては、利用率を高めるために今年度から、Googleフォームを活用したメール受付による利便性向上と代協ニュースへのサポートデスク取組み内容の周知を行うなどして、周知に取り組んだと説明。また、保険や保険募集に関する勉強とは異なる代理店経営のセオリーを学ぶ「代理店経営未来塾」も8月に第4期のフォローアップとしてのセミナーを開講し、11月からは第5期として開講し、現在12名が受講中だと現況を報告した。

第3号議案の全役員任期満了に伴う役員選任の件では、2026年度の理事(役員)候補者17名を選任し、審議にてこれを了承。総会終了後に開かれた理事会で小田島会長の再任が決まった。小田島会長は3期目(1期2年)を迎える。